

視点を変えれば、 世の中は変わる。

たとえば
半分だけ水の入ったコップを見て、
もう半分しかない、と思うか、
まだ半分もある、と思うか。

視点を変えれば、
世の中の見え方は変わってきます。
当たり前だと思っていたことでも、
違う視点から見つめ直してみると、
新しい発見があることがあります。

Rethinkフォーラムは、
一人では気づけない
新しい視点に気づくことで、
地域活性化のきっかけを見つかる場です。

視点を変えれば、世の中が変わる。
地域が変わる。
未来を変える発見は、
意外と身近に
あるのかもしれない。



「Rethinkフォーラム～視点を変えれば、世の中は変わる。～」(福島民報社主催、いわき市など後援、Rethink PROJECT協賛)は7月8日、いわき市のいわきワシントンホテル椿山荘で開かれました。第1部はお笑いタレントのビビる大木さんが「ビビる大木流の視点」と題してトークを展開。第2部はいわき市の内田広之市長と、いわき自転車文化発信・交流拠点NORERU?ディレクターで日本パラサイクリング連盟ハイパフォーマンスディレクターの権丈(けんじょう)泰巳氏が加わり、「自転車でいわきの新しい魅力を『Rethink』」をテーマにパネルディスカッションを行いました。出演者の軽妙なトークで会場には笑顔が広がり、来場者が熱心に聞き入っていました。その要旨を紹介します。

ゲスト



びびる おおき
ビビる大木氏 (お笑いタレント)
演題: ビビる大木流の視点

1974年埼玉県生まれ。1995年にコンビ「ビビる」を結成。2002年のコンビ解散後はピン芸人としてマルチに活躍中。幕末好きとしても知られ、幕末をテーマにした書籍の出版や、ジョン万次郎資料館名誉館長、高知観光大使、萩ふるさと大使をはじめとした観光・親善大使を務めるなど活動の幅を広げている。

★ テレビの向こうに感じた素敵な世界 ★

—ビビる大木さんは埼玉県のご出身ということですが、子どもの頃はどんなお子さんでしたか。
勉強はできないけど授業中うるさい、というような子どもでした。当時はテレビでお笑い番組の人気がどんどん上がっていた頃で、素敵な世界がテレビの中にはあるんだなと思いつつ観ていました。自分もそういう仕事してみたいと考えるようになったのは、僕にとっては自然な流れでした。ですから高校生になって、三者面談で進路について聞かれたときに、芸能界に入りたい、お笑いをやりたいという話をしました。すると担任の先生に「現実感がない」と言われてしまいました。でも僕は、嫌なことがあってもテレビを見て笑ったら「よし、明日も頑張ろう」と思えたことが実際にあったし、自分もそんなふうになんか笑わせることができたらいいなと思っていましたから、あきらめずに突き進みました。もしあそこで断念していたら、今ここに僕はいないし、皆さんともお会いできなかったですね。
—今日は「視点を変える」がテーマの一つですが、「ビビる大木流の視点」とはどんなことでしょうか。
例えば100万部、200万部売れるような小説よりも、僕は5千人、1万人しか読んでいないような小説を読みたいと思ってしまいます。100万人が読んでいようなら自分は違うものを読もうかなと。そういう視点で本を読んだり、映画を観たりすることが多いです。もちろん、大ヒット作の映画も面白そうだなと思えば観に行きますし、小説も読みますけど、違う方に興味がいって、さうそうと幅を広げられるというか、自分の視点を持つような気がしています。
★幕末の歴史から広がった縁
—芸能界で活躍される一方、春日部市の親善大使をはじめ、高知

県観光大使、ジョン万次郎資料館の名誉館長などもされていますね。
春日部市は出身地ですからつながりがありますが、高知県とは縁もゆかりもなかったんです。僕は幕末の歴史が好きで、日本中の幕末の史跡を訪ねて旅行しています。高知にも訪れていて、それをきっかけに声をかけていただきました。観光大使はその土地にゆかりのある人が就く場合が多いですが、高知県はそうではなくて、高知を好きな人になってもらおうよと、あるとき視点を変えたんでしょね。高知というと坂本龍馬が知られていますが、調べていくうちにジョン万次郎も面白いなと思ってね。土佐清水市にあるジョン万次郎資料館を訪ねたのが縁で、「そんなにお好きなら名誉館長をしませんか」と言われたんです。僕でいいのかと驚きましたけど、明るく迎えてくれました。たまたま興味を持った幕末の歴史からそういう関係が生まれて、うれしい連鎖だなと思います。
—幕末がキーワードになって、全国を旅するきっかけになっているんですね。
幕末は150年くらい前のことですから、歴史としてはそれほど昔のことではないんです。各地にゆかりの場所があり、建物が残っています。新撰組の近藤勇の墓があるって聞いて、会津若松にも行きましたよ。土方歳三が傷を癒やしたという温泉も会津にはありますね。自分は今、土方歳三と同じお湯に浸かっているんだと思ったら最高じゃないですか。そういう旅の楽しみ方もあると思います。
★視点を変えて、好奇心を胸に
—ご自身の体験を通して、視点が変わったなと思ったことはありますか。
若手の頃でしたが、スキー場でロケをしていたときのことで、そりで滑って降りてきたんですけど、止まらなくてレストハ

ウスに激突してしまっただけです。ロケは中止、僕は背骨を圧迫骨折してそのまま入院です。「大木さん、こうしていられるのは奇跡ですよ」と言われるほどの大けがでした。入院中は、動けないのでテレビを見るくらいしか楽しみがないんですけど、お笑いの番組を見て「死んじまえ！」なんて激しいツッコミがあるわけですよ。以前は僕も、何も考えずに笑っていましたが、病院のベッドの上で見ると笑えないんです。他の患者さんも誰も笑っていません。病院なので死がリアルに身近にあるんですね。もちろん、芸としてそういう笑いの取り方もあるのですが、自分はこういうスタイルはやめようよとそのときに思いました。患者さんから楽しみを奪いたくないなと、自分も入院生活をして初めて気付いたことでした。
—普段から大切にしていること、意識していることは？
ある人に「大木くん、好奇心を大切にしてくださいね」と言われたことがあります。それ以来、好奇心が私の行動のきっかけになった気がします。例えば、僕は美術に関する知識はありませんが、テレビで一枚の絵をたまたま見て「あ、これいいな」と思うことってありますよね。じゃあこの絵を見に美術館に行ってみようかなという気持ちになります。知識がなくても、実際に行ってみたら何か感じることもあるかもしれないから、「どうせ見ても分からない」というのは思い込みですね。行ってみたいと分からないじゃないですか。絵に限らず、景色でもいいし、お城とかね。心に何か引っかかったら、好奇心を発揮して行動してみようよ。その最初の一歩がハードル高いなと思うこともあります。僕も休みの日は遅くまで寝たいです。でも行かないと何も始まりませんから。幕末の史跡めぐりに関しても、その場所に行ったからこそ分かること、学べることが多いです。ですから見に行く、会いに行く、というのは大事ですね。先入観をなくして好奇心で動く、というのが僕の人生のテーマかなと思います。

テーマRethink福島～自転車でいわきの新しい魅力を『Rethink』～

パネルディスカッション出演者 びびる大木氏 (お笑いタレント)、内田広之氏 (いわき市長)、権丈泰巳氏 (NORERU?ディレクター、一般社団法人日本パラサイクリング連盟ハイパフォーマンスディレクター)、小野寺彰子 (アナウンサー、Co-Life代表)

自転車身近に楽しむ環境へ

小野寺 いわき市は温暖な気候を生かし、自転車を活用した地域振興に力を入れています。観光資源として多くのサイクリストを呼び込み、自転車を愛好する市民を増やす取り組みも進んでいます。その背景はどのようなことでしょうか。
内田 いわき市は海や山、街があって温泉も豊富です。この恵まれた資源を生かしたいという思いがあります。一方で、市民の健康指標は厳しい状況で、その理由に運動不足、塩分摂取量が多いというデータがあります。自転車に乗る人を増やして市民の健康指標の改善につなげたいということから取り組みを始めました。
権丈 私は「いつでも誰でも乗れる環境」を目指し、いわきで自転車に関する活動をしています。2019年に私がいわきに来て感じたことは、自転車に乗っている人が少ないということでした。短い距離でも車で移動する方が多いですね。自転車は有酸素運動になりますから、健康のためにもおすすめのツールです。
小野寺 大木さんは普段、自転車には乗っていますか？
大木 もちろん乗ってますよ。娘の送迎は電動自転車で行ってますし、5月にはBMXを買いました。僕は散歩も好きですが、自転車は徒歩よりも速くに行けますから、ちょっと遠回りして帰ろうとか、初めての路地に入りま

とか。そこでお店を見つたり、家の近所でも再発見することは多いです。
多様なサイクリングルートの活用
小野寺 いわき市は海沿いにサイクリングロードを整備されていますね。
内田 復興サイクリングロード「いわき七浜海道」は、防潮堤や既存の道路を活用した総延長53kmのサイクリングルートです。太平洋沿岸を走るルートで眺めもよく、最近では自転車で走っている人の姿をよく見るようになりました。
権丈 自分のペースで走れるのが自転車の魅力です。初心者の方は最初から長い距離を走ろうとせずに、「きょうは30分走ろう」というように距離より時間を目安にするのもいいですね。坂道がきつと思う方は電動自転車という選択肢もあります。
小野寺 サイクリストを呼び込むためにされていることは？
内田 「七浜海道」のほかにも、海岸線や街なか、山間部それぞれにルートを設定したマップをつくり、市のサイクリング情報サイトで紹介しています。また、市内11カ所にサイクルステーションを整備し、子ども用、大人用、電動、タンデムなどレンタル自転車を配備しています。さらに、飲食店や宿泊施設などとの協力により、サイクルラックを設置して、トイレ、休憩などができる「サイクリストっぶ」を現在84カ所に設けています。こういったものを組み合わせると、おもてなしサービスを引き続き充実させていきます。

権丈 ホスピタリティは大事ですね。例えばバンクしたときにコンビニでもチェーンを買えとか、空気入れを貸してくれるような場所が多くあると安心です。サイクリストが安心・安全に走れるまちは、市民が安心・安全に走れるまちでもあります。そういう整備が進んでいくといいですね。
自転車を目指すウェルビーイング
小野寺 自転車はまさにウェルビーイング(心身が健康で社会的にも満たされた状態)に効果的です。
内田 自転車に乗ると、とても気持ちが良くて、体への効果はもちろん、心も健康になっていきそうな感じがしています。心の部分への効果はすごく大きいのではないかと思います。
大木 乗った後の爽やかな疲れも魅力です。いい疲れ方というのかな。自転車だといろんな発見ができて、脳にも新しい刺激を受けているような感じがします。
権丈 自転車だから見えるもの、気づくことがあって、そこにワクワクしますね。走っているうちに仲間ができて交流が広がって、楽しみも増えていくことは、心の健康にもいいと思います。
内田 楽しく走っているうちに、気づいたらお速者度が上がっていた、となることに期待しながら、自転車を通していわきの魅力をさらに発信していきます。



主催/福島民報社 後援/いわき市、いわき市教育委員会、いわき商工会議所、ラジオ福島 協賛/Rethink PROJECT